

令和6年度 校内研修全体計画

1 テーマ

【目指す子ども像】考えることを楽しむ子ども～「書く」「話す」を中心に～

- ①自分の考えを「書く」「話す」子ども【自分で考える】
- ②思いや考えを「伝える」「つなげる」子ども【みんなで学び合う】
- ③学びを深めて「できる」「生かす」子ども【生かす深める】

**自分で考え、みんなで学び合い、「できる」を実感する子どもの育成
～算数大好き相西っ子を目指して～**

○ 主題設定の理由（成果と課題より）

数年間、重点的に取り組んできた「書くこと」の指導が実を結んできている。研究授業などで、どの学年の授業においても、子どもたちがノートに一生懸命に書いている様子が見られた。また、学力テストにおいても、「書くこと」の正答率が高かった。校内での単元テストや学力テスト等において、無回答率がかなり減ってきている。これまでは、何も書かない、解答しないという子どもたちが一定数いたが、そうした子どもたちがほぼ0の段階まで伸ばすことができている。書く意欲に加えて、集中力や点数に対するこだわりが学校全体として、伸びてきている。

「話し合い活動の充実」においては、学校全体として、まだまだ日々取り組んでいかなければならないと多くの反省が挙がった。「話し合い活動」では、各学年における話し合い活動の目標（この学年では、このレベルまではできてほしいという達成度）をもって進めていく必要がある。求められる図や資料、グラフ等からわかることを書く、資料を活用または参考にしながら書く力については、まだまだ課題がある。書くことの質を求めていきたい。

これら昨年度の成果と課題から今年度は上記のように研究主題を設定し、仮説を立て、研究内容を改めて考え直した。

2 研究仮説

- ①授業や単元において、自ら問いをつくり、自分の考えをもたせる工夫をすることによって、自分なりの見方・考え方を働かせて考えることができる子どもになるであろう。
- ②学び合ってみんなとつくる場面を設定することによって、自分の思いや考えを表現することができる子どもになるであろう。
- ③学びの深まりを実感できる場を設定することによって、自分の成長や変容に気づき算数大好きな子どもになるであろう。

3 研究内容

「研究内容1」

問いをつくり、自分の考えをもたせる工夫

- ①問いや意欲を引
⇒生活場面の想起、資料の提示、発問などの吟味、工夫
- ②「めあて」と「まとめ」の工夫
⇒整合性、子どもの言葉から作る
- ③問いに対する自分の考えを書く場面の設定
⇒見通しをもたせる、既習事項の活用
- ④「書き方」と「視点の与え方」の工夫
⇒表現や言葉の例示、図・式・表・グラフの適切な使い方

「研究内容2」

学び合ってみんなとつくる場面の設定

- ①個の考えをもち寄って、視点をもとにした交流の工夫
⇒目的に適した人数や交流設定
- ②心をつなぐコミュニケーションの充実化
⇒話す力・聞く力の育成、コミュニケーションレベルの設定
- ③自分の考えを伝える工夫
⇒算数の言葉を使う、順序立てて説明する（まつだ）、文や図をつなげて話す

「研究内容3」

学びの深まりを実感できる工夫

- ①学習したことを使って「できる」を実感する場面の設定
⇒習熟問題への取組、習熟ノートの活用
- ②学習したことを実際の生活に生かしたり、他の学習等で活用したりする単元、ゴールの工夫
- ③ふりかえりの視点の設定
・単元はじめのふりかえり
⇒課題意識をもったふりかえり
・単元末のふりかえり
⇒自分の変容を実感できるふりかえり⇒振り返りの時間の設定、振り返りの視点、レベルの設定（系統性）

「研究内容4」 ICTの効果的な活用